

第31回「地球環境大賞」大賞(グランプリ)を受賞
～南町田グランベリーパークの官民連携による地域循環共生圏の実現に向けた取り組みが評価～

東急株式会社
町田市

東急株式会社(以下、東急)と町田市が連携・共同し推進する南町田拠点創出まちづくりプロジェクトのエリアである「南町田グランベリーパーク」(以下、本地区)が、官民連携による“新しい暮らしの拠点”の創出を通じた持続可能な未来のための地域循環共生圏の実現に向けた取り組みであることを評価され、第31回「地球環境大賞」(※1)大賞(グランプリ)を受賞しました。なお、東急では第12回に環境大臣賞、第18回に国土交通大臣賞を受賞しており、大賞は第25回に続き2度目の受賞になります。

本地区は、東急田園都市線「南町田グランベリーパーク駅」(2019年10月1日に「南町田駅」から改称)南側に広がる鶴間公園と、2017年2月に閉館したグランベリーモール跡地を中心とする約22haのエリアを指し、官民が連携し、都市基盤・商業施設・都市公園・駅などを一体的に再整備・再構築し、自然と賑わいが融合したパークライフを満喫できる「新しい暮らしの拠点」を創り出していくまちづくりプロジェクトが進行しています。

今般の受賞は、1922年の創業以来、事業活動を通じた社会課題の解決に取り組んできた東急と、将来的なゼロカーボンの実現にむけたまちづくりを進めている町田市とが連携し、本地区において取り組んでいる以下について総合的に評価をされたものです。

主な評価ポイント

- グリーンインフラを採用し、雨水の自然浸透装置をエリア全体に配置
- 歩車分離かつバリアフリーでシームレスにつながったウォークアブルでコンパクトなまちづくり
- カーボンニュートラルなライフスタイルの普及のため、電気自動車の急速充電を設置
- 商業施設での、LED照明および太陽光発電システムパネルの一部導入
(今後は、太陽光発電所を活用したオフサイトコーポレート PPA モデル(※2)を採用予定)
- 国際的な環境認証制度「LEED」の2部門で国内初のゴールド認証を取得

※1:「地球環境大賞」は、1992年、「産業の発展と地球環境との共生」を目指し、公益財団法人世界自然保護基金(WWF)ジャパンの特別協力を得て創設され、環境保全に貢献する企業・団体等を対象とする顕彰制度です。本制度は地球温暖化防止や循環型社会の実現に寄与する新技術・新製品の開発、環境保全活動・事業の促進や、21世紀の社会システムの 探求、地球環境に対する保全意識の一段の向上を目的とした、国際連合が掲げる「SDGs(持続可能な開発目標)」の理念とも一致した取り組みです。フジサンケイグループが主催、経済産業省、環境省、文部科学省、国土交通省、農林水産省、総務省、一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所が後援しています。なお、授賞式は2023年4月17日(月)に東京・元赤坂の明治記念館にて執り行われる予定です。

※2: 場所の離れた発電所から需要場所へ送配電系統を通じて電気を供給することを前提に、発電事業者・小売電気事業者・需要家が長期・固定価格で電力購入契約を結ぶ、電力供給・調達方法。

以上

【別紙】

<位置図>



1. 評価された取組事例

■グリーンインフラを採用し、雨水の自然浸透装置をエリア全体に配置

調整池や雨水貯留槽などの従来型の雨水流出抑制策に加え、自然環境が有する機能を活用するグリーンインフラを採用。敷地周辺を囲むように石を敷き詰めた隙間の多い溝状の「雨のみち:バイオスウェル」と、くぼ地状の植栽帯である「雨のにわ:レインガーデン」をランドスケープのデザインへ取り込みました。



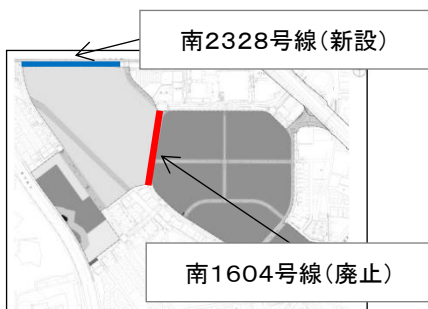
▲雨のみち:バイオスウェル



▲雨のにわ:レインガーデン

■歩車分離かつバリアフリーでシームレスにつながったウォーカブルでコンパクトなまちづくり

一度計画的につくられた道路・公園などの都市基盤や整形された宅地・街区を再度の土地区画整理事業により再配置するとともに、かつて分断されていた駅・商業施設から公園までのエリアー帯を、歩車分離かつバリアフリーでシームレスに繋がる歩行者ネットワークを配置することで、“歩く”ことを前提にしたウォーカブルなまちに再編しました。



▲南1604号線※2018年6月に廃止



▲パークライフ・サイト内歩行者空間

2. 主な関係組織

町田市、東急株式会社、東急電鉄株式会社、株式会社東急レクリエーション
株式会社ソニー・クリエイティブプロダクツ、ラグアルダ・ロウ・アーキテクツ、株式会社東急設計コンサルタント
Fd Landscape、ティーハウス建築設計事務所、株式会社森緑地設計事務所、東急建設株式会社

「南町田グランベリーパーク」の概要

まち名称 「南町田グランベリーパーク(Minami-machida Grandberry Park)」
敷地面積 約22ha
交通 田園都市線南町田グランベリーパーク駅直結 / 東名高速道路横浜町田ICから約1分
開業日 2019年11月13日
南町田拠点創出まちづくりプロジェクトホームページ <https://minami-machida.town>
※商業施設名称は「グランベリーパーク(Grandberry Park)」



【参考】そのほかの受賞歴など

■令和2年度都市景観大賞「都市空間部門」国土交通大臣賞

2020年6月に、令和2年度都市景観大賞「都市空間部門」において、大賞にあたる国土交通大臣賞を受賞しました。都市景観大賞は、平成3年度から「都市景観100選」として始まった、まちづくり分野における由緒ある賞で、このうち、「都市空間部門」の選定対象は、公共的空間と建物などが一体となって、良質で優れた都市景観が形成され、市民に十分に活用された地区と規定されています。本プロジェクトの、官民一体で取り組んだシームレスなまちの構造と、質の高い空間整備が高く評価され、大賞受賞にいたしました。

※国土交通省による記者発表(2020年6月11日「令和2年度「都市景観大賞」各賞の選定～良好な景観に資する地区・活動について、特に優れたものを表彰～」)

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10_hh_000343.html

■国際的な環境認証制度LEED®(Leadership in Energy and Environmental Design)におけるゴールド認証

南町田グランベリーパークのうち約15haの区域(以下、「申請エリア」)において、2020年6月に駅舎部分に関する「LEED NC(新築部門)」のゴールド認証を、同年7月に申請エリアに関する「LEED ND(まちづくり部門)」のゴールド認証をそれぞれ取得しました。駅舎建築物としてのゴールド認証の取得、駅舎を含む開発エリアのゴールド認証の取得ともに、国内初です。

LEED®は、米国グリーンビルディング協会が所管する環境性能 評価指標のことであり、環境配慮型の建物や敷地利用を評価対象とし、環境性能を様々な視点から評価することで、エネルギー効率にすぐれ、持続可能な建築物を普及することを目的とした評価制度です。「BD+C(建築設計および建設)」「ND(近隣開発)」など6つの評価分野があり、世界全体で8万を超えるプロジェクトが認証を取得しています。

■「第40回緑の都市賞」国土交通大臣賞

2020年10月に「第40回緑の都市賞」において国土交通大臣賞を受賞しました。「緑の都市賞」は、緑豊かなまちづくりへの貢献に対する「都市の緑3表彰」のひとつで、みどりを生かした環境の改善、景観の向上、地域社会の活性化などに先進的かつ意欲的に取組、良好な成果を挙げた市民活動やまちづくり活動を表彰する、今年で40回目となる歴史ある賞です。今回、「緑の事業活動部門」として、公園をはじめとする「まちのオープンスペース」を新しい価値に据えた官民一体のまちづくりや、地域と一緒に取り組んできた、まちの中で育った木をまちづくりに活かす独自の取組などが高く評価され、国土交通大臣賞受賞にいたしました。

※公益財団法人都市緑化機構によるプレスリリース(2020年10月22日)

https://urbangreen.or.jp/info-grant/3hyosho/3toshisho/201022_press_toshinomidori3hyosho

■「第8回プラチナ大賞」新しい時代のまちづくり賞

2020年10月に、「第8回プラチナ大賞」において、優秀賞-新しい時代のまちづくり賞-を受賞しました。「プラチナ大賞」は、370の自治体・企業・学識者等(2020年9月時点)で構成する「プラチナ構想ネットワーク」が主催し、これからの日本が直面する社会や地域の課題を、新たな切り口、手法で解決しようとする先進的な取組の中で特に優れた事例を表彰する、今年で8回目となる賞です。今年は全国から58件の応募があり、最終審査に進出した14団体が10月22日にプレゼンテーションを行いました。本地区における、官民連携による歩いて楽しいウォーカブルなまちへの再編、一般財団法人の設立による将来を見据えたまちづくりと持続的な発展につながる組織体制の構築などの取組が評価され、優秀賞-新しい時代のまちづくり賞-を受賞しました。

■「第1回グリーンインフラ大賞」優秀賞

2020年12月に「第1回グリーンインフラ大賞」において優秀賞を受賞しました。グリーンインフラ大賞は、グリーンインフラに関する優れた取組事例を表彰し、広く情報発信することを目的に、令和2年度に創設された表彰制度です。第1回グリーンインフラ大賞では、「防災・減災部門」「生活空間部門」「都市空間部門」「生態系保全部門」を対象に、全国から応募のあった117件の取組事例の中から、22件の優秀賞が決定されました。本地区は、都市の魅力づくり、バリアフリー、豪雨対策などの地域課題を、官民の連携・協働によるまちの再編を通じて解決させ、まちの共通デザインとしてグリーンインフラを積極的に活用した取組として評価され、受賞にいたしました。

※国土交通省による記者発表(2020年12月17日「第1回グリーンインフラ大賞の優秀賞を決定しました！」)

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000232.html

■「土木学会デザイン賞2021」優秀賞

2021年12月に土木学会デザイン賞2021において、優秀賞を受賞しました。土木学会デザイン賞は、2001年に創設された公益社団法人土木学会景観・デザイン委員会が主催する顕彰制度です。公募対象を広く土木構造物や公共的な空間に求め、計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現した作品およびそれらの実現に貢献した関係者や関係組織の顕彰を行っています。土木学会デザイン賞2021では、全国から応募のあった20件の取組事例の中から、最優秀賞2件、優秀賞5件、奨励賞4件が選定されました。本地区は、官民一体で取り組んだシームレスなまちの構造と、質の高い空間整備やグリーンインフラの取組が高く評価されました。

※「土木学会デザイン賞」過去の受賞作品

<http://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result>

以上